

平成26年7月30日

荒尾市長 前畑 淳治 様

荒尾市民病院あり方検討会

会長 小野 友道



荒尾市民病院新病院建設基本構想（案）について（答申）

平成25年10月1日付け荒政策第385号をもって本検討会に諮問のあった「荒尾市民病院新病院建設基本構想（案）」について慎重審議の結果、成案を得ましたのでここに答申します。

今回諮問された新病院建設基本構想（案）は、単に老朽化した病院を建て替えるための指針ということだけではなく、今後、半世紀にわたって、この地域の命と暮らしを守っていく拠点を整備するための長期的な構想でもあります。

これからの本計画の推進に当たっては、下記の事項に留意され、その実現に努められるよう切に希望します。

記

1. 新病院を単に病を治療する場と捉えるのではなく、今後増加することが予測される高齢者をはじめとした利用者が憩える場となるよう、病院を核として、周辺に住まいや介護・福祉・健康増進施設、さらには公共施設や商業施設などの都市機能を集積した荒尾市の新たな拠点地域が形成されるよう努められたい。
2. 人口5万5千人の荒尾市という都市に、これだけの機能を備えた公立病院があるということは地域の住民にとって貴重な財産である。子や孫の暮らす後世に、この貴重な財産を引き継いでいきたいと思う人が一人でも多くなるよう、市を挙げて「市民がつくる病院」という意識の啓発に取り組むよう努められたい。
3. 本検討会における各委員の意見や市民から提出された意見など、今回の計画策定に際し提起された多くの意見や要望等については、計画・実施段階において十分考慮するよう努められたい。

【添付資料】

1. 荒尾市民病院 新病院建設基本構想（案） （1部）
2. 荒尾市民病院 新病院建設基本構想（案）資料編 （1部）